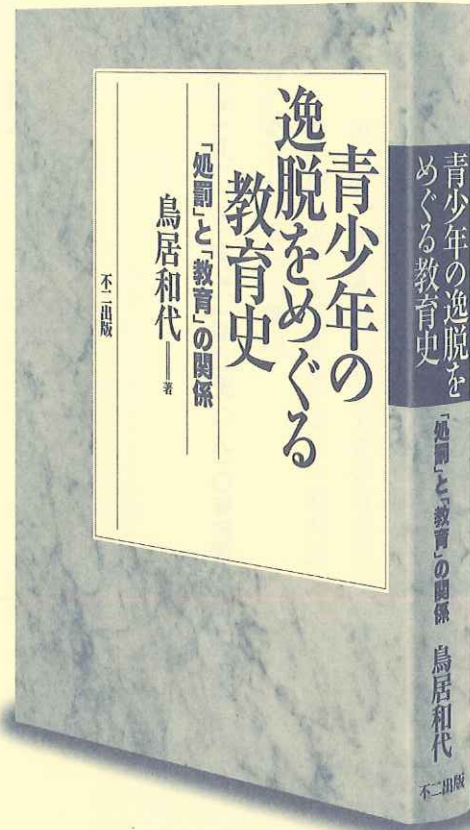


# 青少年の 逸脱をめぐる 教育史

「処罰」と「教育」の関係

鳥居和代 著



A5判・上製・300ページ

2006年11月刊

ISBN4-8350-5587-X

定価●本体価格5,800円十税

一九九〇年代の後半になって、日本では青少年犯罪の「凶悪化」が社会問題として世間の注目を浴びるようになった。こうした近年の青少年に対する

「保護主義」や「教育的処遇」の見直しの動きは、青少年処遇の歴史の延長線上で生じている

出来事であり、過去と切り離された問題ではない。

本書は、一九二二年少年法の成立過程から、

一九二〇～三〇年代設立の

校外教護・保導機関の取り組み、総力戦体制下の勤労青少年輔導政策の展開を通して、

子どもや青年たちへの働きかけが

いかなる実質を備えていたのかを

「処罰」と「教育」の関係の視点を軸として考察したものである。

不二出版

序章

第I部●一九二二年少年法成立史（一九〇年前後～一九二二年）

第一章 少年法制定への動向

- 第一節 少年法立案着手までの諸状況
- 第二節 刑事訴訟法改正主査委員会での論議
- 第三節 少年法立案過程とその周辺

第二章 第四二回～第四四回帝国議会における少年法案審議段階

- 第一節 少年法案の帝国議会上程まで
- 第二節 第四二回～第四四回帝国議会における少年法案審議
- 第三節 感化事業関係者の少年法案修正要求

第三章 第四五回帝国議会に向けての少年法案修正

- 第一節 司法省の少年法案修正作業
- 第二節 少年法案修正をめぐる省庁間の動き
- 第三節 第四五回帝国議会直前の二度目の少年法案修正

第II部●校外教護・保導史（一九二〇年代～一九四〇年前後）

第一章 校外教護・保導事業の発達

- 第一節 校外教護・保導の萌芽
- 第二節 校外教護・保導の全国的普及

第二章 校外教護・保導機関と関係諸団体との連携

- 第一節 少年保護事業との提携
- 第二節 警察との提携

第三章 校外教護・保導機関による校外監督の行き詰まり

- 第一節 校外教護・保導事業と学校教育批判
- 第二節 校外教護・保導事業の自家撞着

第四章 校外教護・保導機関の設立の意味―大阪府の事例から―

- 第一節 校外教護・保導が学校教育に与えた影響の検討
- 第二節 一九二〇年代の大阪府下中等学校の校外監督状況
- 第三節 大阪府教護聯盟と加盟学校との関係
- 第四節 一九二〇年代から四〇年代までの生徒懲戒処分の変遷と校外生活
- 第五節 校外教護・保導機関設立の意味

第III部●勤労青少年輔導史（戦時下・一九四〇年代）

第一章 「勤労青少年輔導緊急対策要綱」の閣議決定まで

- 第一節 青少年不良化防止に関する政策動向
- 第二節 警察の一斉取締りと青少年工不良化問題
- 第三節 「勤労青少年輔導緊急対策要綱」の伏線

第二章 「勤労青少年輔導緊急対策要綱」の実施とその具体策

- 第一節 勤労青少年輔導対策の具体化
- 第二節 勤労青少年の輔導練成の進展

第三章 勤労青少年輔導練成の末路

- 第一節 戦争末期における労務状況の一斑
- 第二節 「勤労不良者」「勤労犯罪者」対策

結章

● 著者紹介

鳥居和代（とりのい かずよ）

一九七四年 鳥取県生まれ

一九九八年 お茶の水女子大学教育学部教育学科卒業

二〇〇五年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了、博士

（社会科学）

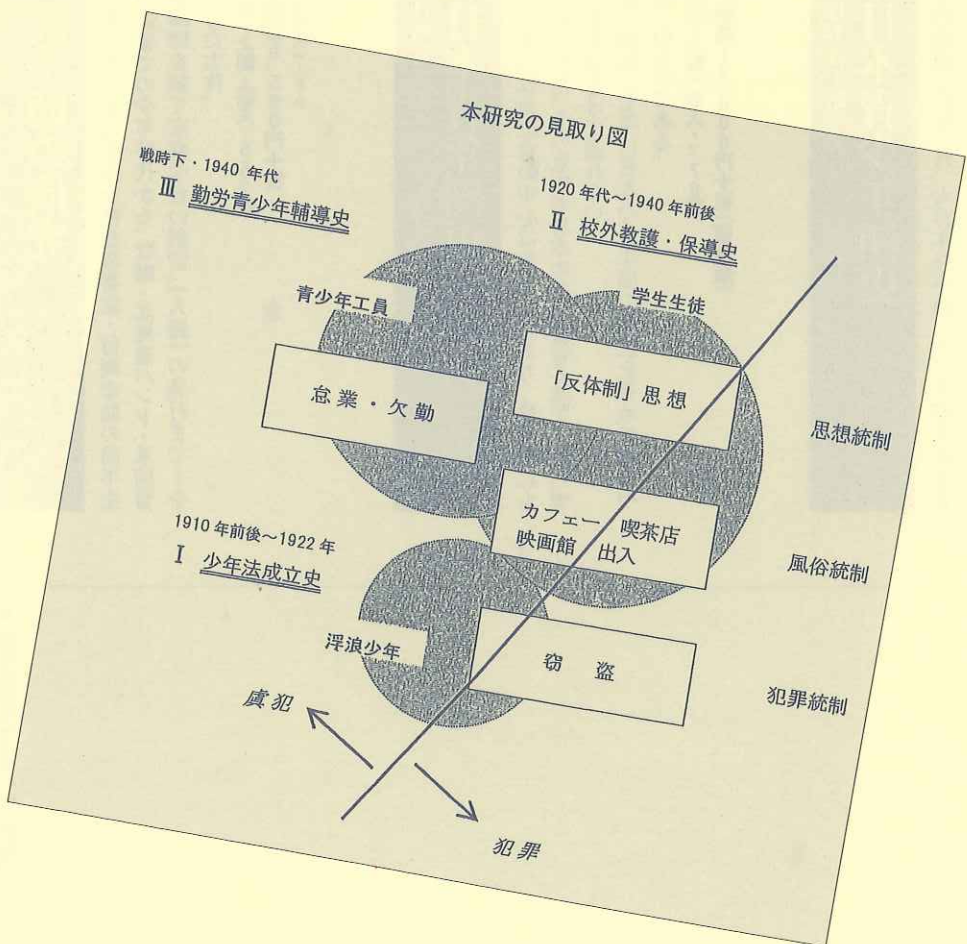
現在 武蔵野美術大学、お茶の水女子大学非常勤講師

共著 『教育相談論』（武蔵野美術大学出版局、二〇〇二年）

本研究は、戦前日本における青少年の逸脱をめぐる諸事象を教育の歴史的文脈の中に位置づけ、子どもや青年たちへの対応がいかなる実質を備えていたのかを考察しようとするものである。

本研究では青少年の逸脱を、刑罰法令において定められた法規範や、一定の社会成員によって共有された社会規範および集団規範、あるいはこれらがたなり小なり前提している特定の道徳観や倫理観などの価値規範を含む、ある種の有形無形の規準から外れているとみなされた子ども・青年たちの行為や状態を指すものと捉えている。しばしば「犯罪」「非行」「不良」などの語で表現される様態を包括する言葉として用いる。

基本的に逸脱現象とは、逸脱とみなす側とみなされる側との相互行為に属する性質のものであり、ある事柄を逸脱とみなした他者によるラベル付けの結果として立ち現れる性質を持っている。本研究が主に取り扱う歴史事象もこの例に漏れない。したがって、誰が、どのような規範や価値意識に基づき、誰の、どのような行為や状態を逸脱とみなしたのかが、ある程度明確に把握できる歴史事象に本研究の対象は絞られる。



湯川次義 著  
**近代日本の女性と大学教育**  
 —教育機会開放をめぐる歴史—

戦前日本における女性への大学教育機会の開放をめぐる史的展開に着目し、その理念・制度構想・門戸開放の実態を考察し、性に基づく大学教育機会の差別がどのように克服されたかを究明した書。

- A5判・上製・732頁
- 本体価格8,500円十税
- ISBN4-8350-2371-4

澤山信一 編・著  
**学校保健の近代**

戦前期トラホーム対策の歴史を患者児童とその親の側から描写し、これまでの学校保健史の常識を問い直す著。さらに雑誌『養護』（一九二八〜三七年）から学校看護婦による記録八〇点を選び、収録。

- A5判・上製・232頁
- 本体価格2,800円十税
- ISBN4-8350-3871-1

原 胤昭 著  
**獄事叢書《全3巻・別冊1》**

本誌は、出獄人更正事業で知られるキリスト教教誨師・原胤昭が、監獄を囚人懲罰でなく囚人更正のために改良しようとしてこした監獄改良運動の機関誌である。

- 推薦 重松 義・谷 昌恒
- 別冊 解説(室田保夫)・総目次・索引
- A5判・上製・総1,272頁
- 本体価格45,000円十税(復刻版)
- ISBN4-8350-0533-3

室田保夫 著  
**留岡幸助の研究**

近代日本における代表的な社会事業家・留岡幸助の前半生——岡山高梁での少年時代から、牧師・北海道バンド・米国留学・教誨師を経て家庭学校の創設、「人道」の発行まで——をあとづけた力作。

- A5判・上製・函入・552頁
- 本体価格9,500円十税
- ISBN4-938303-24-8

(財)日本青年館 発行(取扱図書)  
**大日本青年團史**

戦前、日本の社会教育の中心は青年団であり、政策的にも重視されてきた。その意味で日本の社会教育を語る時、青年団の歴史はさけて通れない。本書は、昭和一七年に日本の青年団の歴史を初めて体系づけた唯一のものである。

- A5判・上製・函入・776頁
- 本体価格14,000円十税(復刻版)

(財)日本青年館 発行  
**大日本青少年団史**

戦時下の昭和一六年一月、大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟(ボイスカウト)・帝国少年団協会の四団体が統合され「大日本青少年団」が結成された。本書は、戦時下の後方援護、食糧増産、民間防衛などに従事、敗戦までの国家総力戦体制にまきこまれていく過程を記録。

- A5判・上製・函入・1,072頁
- 本体価格18,000円十税(復刻版)

● 表示価格はすべて税別。

**不二出版**

〒113-0023  
 東京都文京区回生1-2-12  
 電話03-3812-4433  
 ファクシミリ03-3812-4464  
 振替001600294084